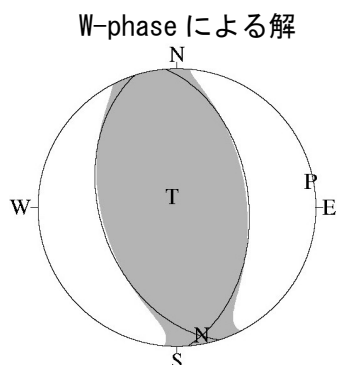


6月8日 フィリピン諸島、ミンダナオの地震 (W-phase を用いた発震機構解析)

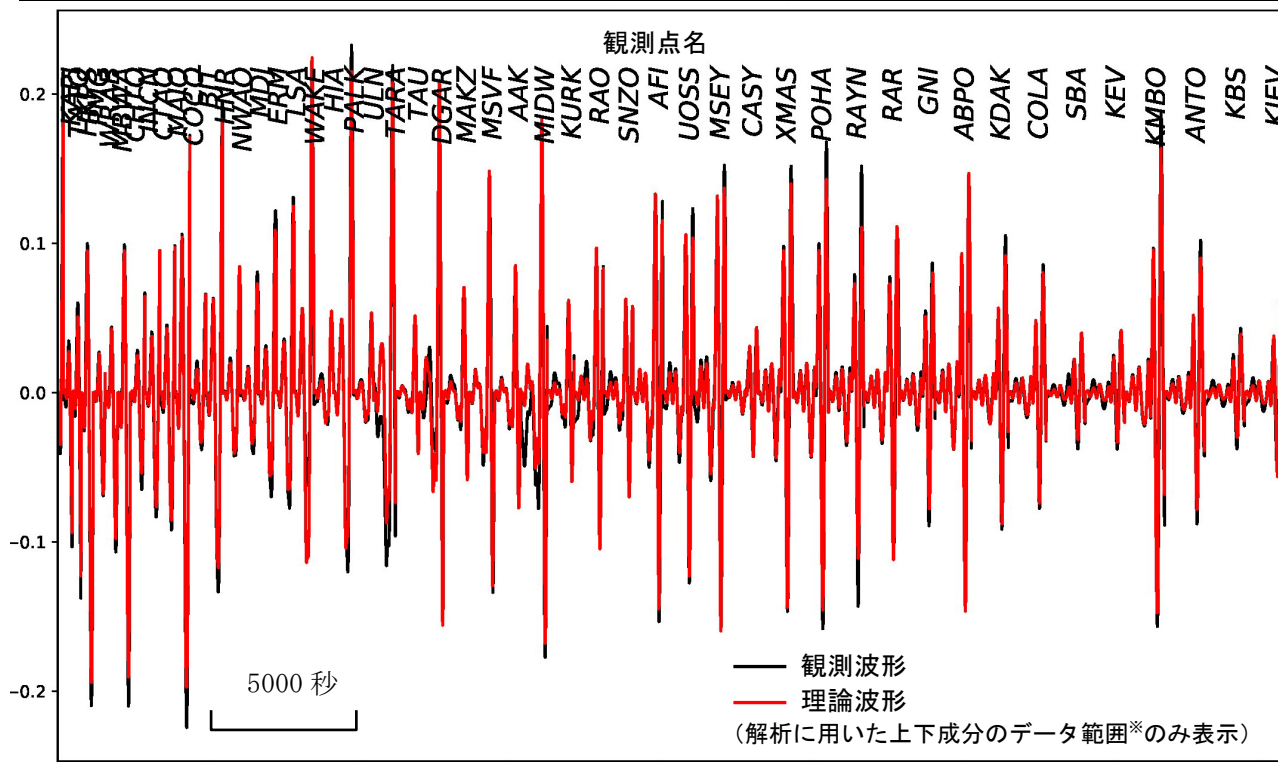


2026年6月8日08時37分（日本時間）にフィリピン諸島、ミンダナオで発生した地震について W-phase を用いた発震機構解析を行った。発震機構、 M_w も、他機関の解析結果とほぼ同様であり、 M_w は7.8であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は北緯 5.5° 、東経 125.1° 、深さ 50.5km となった。

W-phase の解析では、震央距離 $10^\circ \sim 90^\circ$ までの49観測点の上下成分、46観測点の水平成分を用い、200~600秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。

M_w	M_0	断層面解1 (走向／傾斜／すべり角)	断層面解2 (走向／傾斜／すべり角)
7.8	$6.15 \times 10^{20} \text{Nm}$	$162.4^\circ / 43.8^\circ / 80.6^\circ$	$355.3^\circ / 46.9^\circ / 98.9^\circ$



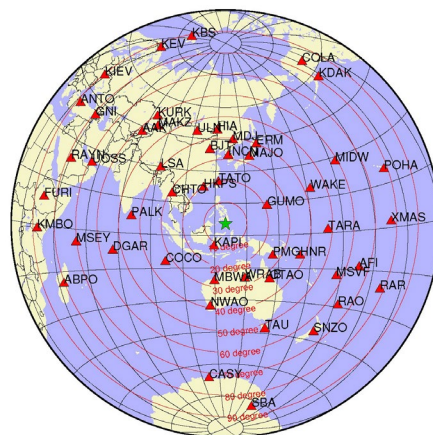
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには、EarthScope Consortium より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成